

会報・第25号

2002年10月15日

発行 北陽高等学校同窓会

編集 同窓会広報委員会

印刷 株式会社アーツ



北陽同窓

ご挨拶

会長 三木 憲三

(昭和23年卒)



北陽高校同窓会各位には、ますますお元気で、各方面にご活躍されていることとお喜び申し上げます。又平素から同窓会活動に対して、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

母校では本年4月、25年の長きに亘り校長を務められ、私学の雄として全国にその名を馳せる存在に押し進めて頂いた林敏夫先生が退任され、新たに大谷宗平先生が校長に就任されました。

林敏夫先生が昭和24年より53年間、北陽のため全身全霊を傾けて教育に又学園発展に取り組み今日の北陽を築かれたことに対して、同窓会を代表して衷心より御礼申し上げる次第です。

又、大谷先生には校長ご就任誠におめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。しかし現今の少子化や経済不況は、いま社会現象として、私学経営や教育環境に大きく立ちはだかってきております。この苦難の時代に学校長と云う責任ある地位に付かれ大変ではありますが、持前のバイタリティーとリーダーシップを発揮して頂き、我々の掛替のない母校北陽高校が21世紀において更に飛躍を遂げるために舵を取って頂くようお願い申し上げます。同窓会ではお力添えできることがあれば、決して協力を惜しむものではありません。

ここに林敏夫先生に対する感謝の念と、大谷校長先生の御健勝と御活躍あらん事をご祈念申し上げ挨拶といたします。

ご挨拶

新校長 大谷 宗平



この春をもって林校長先生が去られ、その後を引き継ぐことになりました大谷です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和39年に北陽高校にお世話になることとなりましたので、今年で39年になります。思えばさまざまなことがありましたが、この間、北陽高校はまさに発展のときにあり、私自身、充実した教師生活を送らせていただきました。生徒数1,800人にも及ぶ時もありました。新校舎を始め、第二グラウンド、テニスコート、温水プール、小体育館など教育施設も整い、硬式野球、サッカー、水泳、軟式野球、陸上、ハンドボールなどクラブ活動はその全盛を築いてきましたし、一方、商業学校から普通科の学校へと改革され、学習面では特色あるコース制度の設置により、進路における実績も着実に上がってきました。これらは、先生方の指導と生徒諸君の努力があつてのことですが、やはり学園の支援と林前校長先生のリーダーシップがあつたからこそ進めてこられた実績であり、教育財産であります。本校は現在1,158名の生徒数ですが、今日の少子化、経済不況という社会の波の中にあつて、私学におきましてもまことに厳しい状況にあります。また、今日、第三の教育改革が推進されており、「学校完全週五日制」や「新学習指導要領」の改訂にともない実施の段階を迎えつつあります。本校にあつてもなすべき課題は山積みとなっています。「21世紀は教育の世紀」「心の時代」とも言われています。本校の建学の精神である世に出て役立つ人間の育成、そのためには「知・徳・体」を兼ね備えた調和の取れた人間を育成するという理念の基本に戻り、これまでの本校の伝統と財産を再構築していくべく時にあるかと思ひます。

同窓会の方々が母校を心の故郷として活躍されていることを大切に、微力ながら努力していく所存であります。今後とも皆様のあたたかいご支援をお願いして挨拶といたします。

ご挨拶

新教頭 鈴木 清士



お別れのご挨拶

前校長 林 敏夫



人生体験もなく、大して中味のある人間ではないだけに、林敏夫前校長から教頭の拝命を受けたときは、正直いって戸惑いました。学校を取り巻く情勢が今後ますます厳しくなっていくだけに、自分にいったい何ができるのかを考えると、今でも不安な気持ちを隠すことができません。

14年前に林前校長の諮問機関として発足したプロジェクトは、当時は「進学対策」のための提案組織でした。英国、特進コースを誕生させたことは、その後の進学実績を見れば明らかのように、確かに大きな改革になりましたが、来年の「六日制」はさらに大胆な改革になります。15年度新教育課程において「六日制」を実施するというプロジェクト案は、時代と逆行する（公立学校は五日制）だけに校内では多くの反対がありました。「六日制」が成功するか失敗するかは、全教員の意識改革と今以上の努力にかかっています。終始プロジェクトに関わってきた私としては、北陽が生き残るために何としてでも失敗させるわけにはいきません。

残念なことに、いまだ教員の意思がバラバラで統一されていません。北陽の良さがなくなりつつある、その意味ではすべての教員の間に危機感があります。

繰り返しますが、私に何ができるかわかりません。野球に例えるなら、直球しか持っていない不器用な投手です。しかも剛速球といえるほどのスピードもない。しかし、そんな私でも魂のこもった球なら投げられる、と思っています。

今春より新たに設置された広報部で対外的に大切な役割を担う米川先生とも協力をさせていただき、柴田新事務長からは経済的な面のご指導をさせていただきながら、大谷新校長を盛り立てていきたいと考えています。

大切なことが最後になってしまいました。同窓会の皆様からの叱咤激励なしには、北陽の将来はありえない、ということです。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

思えば長い北陽生活でした。戦後間もない昭和24年から53年間、今感謝とともにその年月を振り返ってみます。

昭和20年代は苦難の連続でした。ジェーン台風でスレートの屋根瓦が吹き飛ばされ、その屋根の下の雨漏り教室で授業したことなど多くはもう昔の語り草になってしまいました。やがて昭和30年代から生徒数もふえ、円型校舎もできて、校運は次第に開けてきましたが、40年代になると教員組合の運動が盛んになり、やがて51年には、労使の紛争が1年間も続くという異常事態にまで発展しました。この流れの中で、戦後の学校再建の功労者であった三雲校長をはじめ、庄田、木村の両校長も過労のために退職、結局私が後を継ぐ羽目になりました。私の就任条件は、校舎の全面移転、労使の和解、中高一貫教育の3点でしたが、前2件はかなえられたものの、最後の一貫教育だけは実現の運びにならず、私にとっては今でも無念の極みです。また、時流の沿った男女共学移行の声もありましたが、私は応じませんでした。流行の名目的男女同権よりも、男女それぞれの役割を自覚させ、その本性を助長する教育こそが真の男女共生の道であるという見地から、伝統の男子校の道を歩んだのです。

以上のような学校の歩みの中で、特筆すべきは野球部の甲子園出場とサッカー部の全国優勝です。お蔭で北陽の名は全国に知れ渡り、以後何事にも注目の的となりました。それとともに学園関係者と教員の努力が大きな力となって、進学実績は飛躍的に向上、強力な生活指導と活発なクラブ活動が相まって、知・徳・体の調和を目ざす建学の精神具現の大道を歩んでいます。しかしながら、今日少子化の波は大きく、私学の前途は多難です。その試練にもめげず、北陽が私たちの心のふるさととして力強く生き続けてくれますよう私は皆様とともに祈ります。本当に長い間有難うございました。皆様もどうぞお元気で。

◇ 第25回代議員総会開催 ◇

4月20日代議員総会が行われた。母校会議室で開催され、東京支部からも菊野氏をはじめ小林支部長と内海事務局長が出席された。三木会長の挨拶のあと大谷新校長の就任挨拶があり、栗田副会長を議長に選出し、同窓会活動の報告ならびに事業報告と収支決算について検討され、代議員より承認可決された。

13年度決算、14年度予算案は下記の通りとなった。

■平成13年度 同窓会決算報告

自 平成13年4月1日
至 平成14年3月31日

収入の部

科目	予算	実績	摘要
前期繰越金	13,968,241	13,968,241	
会費	2,350,000	2,340,000	
代議員会費	200,000	170,000	
会員協力金	1,400,000	1,260,000	
会報広告収入	140,000	80,000	
受取利息	14,000	9,049	
雑収入		41,735	
合計	18,072,241	17,869,025	

支出の部

科目	予算	実績	摘要
会議費	80,000	51,690	
代議員会議費	200,000	197,130	
協力金	250,000	250,000	
人件費	280,000	347,600	
交通費	160,000	118,480	
消耗費	89,000	96,056	
通信費	1,269,000	1,317,107	
慶弔費	60,000	110,000	
雑費	10,000	19,765	
予備費	100,000	0	
計	2,498,000	2,507,828	
事業費			
会報発行費	1,100,000	1,153,353	
協力推進費	60,000	59,198	
事業運営費	170,000	0	
組織強化費	200,000	0	
計	1,530,000	1,212,551	
小計	4,028,000	3,720,379	
次期繰越金	14,044,241	14,148,646	
合計	18,072,241	17,869,025	

■平成14年度 同窓会予算

収入の部

科目	金額	摘要
前期繰越金	14,148,646	
会費	1,850,000	370名 @5000
代議員会費	200,000	40名 @5000
会員協力金	1,300,000	前年度実績
会報広告収入	100,000	前年度実績
雑収入(受取利息他)	50,000	
合計	17,648,646	

支出の部

科目	金額	摘要
会議費	100,000	
代議員会議費	200,000	
人件費	350,000	
交通費	100,000	
消耗費	100,000	
通信費	1,350,000	
慶弔費	100,000	
雑費	10,000	
予備費	100,000	
計	2,410,000	
事業費		
会報発行費	1,100,000	
組織強化・協力推進費	200,000	
事業運営費	200,000	
計	1,500,000	
小計	3,910,000	
次期繰越金	13,738,646	
合計	17,648,646	

平成14年母校進路状況

■進路先割合

	大学進学	短期大学進学	専門学校進学	就職	合計
人数(名)	443	15	63	56	577

■平成13年度入試大学合格者人数

平成14年2月25日現在

☆国公立

大学名	推薦入試				一般入試				今年度 合計	昨年度 最終計
	文	理	農	医	文	理	農	医		
同志社					2	1	4		7	1
関西学院					3	1	3		7	7
関西学院					3	2	1		6	9
立命館					1		3		4	3
京都産業	1	2	10	10	1	2			26	37
近畿畿	1		1	3	2	1	3		12	20
甲南					2	3			5	5
龍谷			3	2			5		10	2
大阪工業			3				2		5	2
桃山学院	1	1		5	1				8	14
神戸学院	3		5	1					9	20
大阪経済	1	8	8	2	3	2	1	3	28	17
関西外国語	2		3	1					6	9
仏教	1								1	3
摂南	6	5	1	2					14	16
追手門	13	9	3	3	1	2			31	53
英知		1							1	1
大阪学院	1	21	2	1	4			5	34	29
大阪経済法科	3								3	3
大阪芸術	2					1			3	7
大阪国際	1	1			1				3	8
大阪産業	2	25	9	6	2			1	45	58
大阪商業	1	15	2	1	4			3	26	19
大阪体育					1				1	2
大阪電気通信		7			1				8	6
大阪人間科学	1				1				2	2
大谷	2								2	1
大手前	27								27	16
京都学園	8		2					1	11	7
近畿福祉	1	1							2	0
甲子園		1			1				2	5
神戸国際	2	5							7	5
相愛	1	3							4	7
宝塚造形芸術	1	4							5	1
常磐会	1								1	0
関西国際	1								1	0
神戸山手	2				2			1	5	0
帝塚山	3	4			2	1		2	12	4
奈良産業	1	1							2	6
奈良	1	1	1						2	2
阪南	14	7	1					1	23	38
兵庫			1						1	0
高野山					1				1	0
流通科学		1		1					2	2

大学名	推薦入試				一般入試				今年度 合計	昨年度 最終計
	文	理	農	医	文	理	農	医		
函館	1								1	0
金沢工業		2				1			3	0
関東学院	1								1	0
日本体育						1			1	0
亜細亜						1			1	0
第一工業	1								1	1
皇学館	1								1	0
徳島文理							1		1	1
西日本工業	1								1	0

合計	12	179	37	64	34	6	0	22	5	16	14	38	427	502
----	----	-----	----	----	----	---	---	----	---	----	----	----	-----	-----

同窓の近況

「昭和18年卒 第16期同期会」

第16期生 平野 正勝
世話人 細見 寛治

5月25日(土)同期生13名が集い今回を最終の同期会として開催した。

願みれば昭和28年12月が初回で、その後定例化し毎年開催してきた同期会だが、50年近く経た今日では出席者の数も減少し、継続することが極めて困難な状況となってきた。それは老いたる者の宿命とはいももの物故者となられた友、また病といま懸命に闘っている友が多くなってきたことである。そこで半世紀にわたり実施してきた思い出多い同期会ではあるが、止むを得ず今回をもって解散に踏み切ることとした。

しかし、このまま級友連との交流が途絶えると言うことではなく、限られた人数になっても同期会で遠慮気兼ねなく語り合い、遠い昔に戻れたひとときのあの楽しい集いは、何らかの形で残すべきだと思った。

そこで余生を有意義に過ごしたいとの願いを込め、会合には比較的参加可能な級友を中心に、その名も「北陽16期会」と称し私達にかなった旅行や会食などに取り組むことを確認した。

旅行といえは昨年白浜・敦賀・南九州と三回実施してきた実績がある。

昨年7月の白浜では、玉砕の島サイパンから運び込まれた激戦の傷痕も生々しい野砲や戦車、そして人間魚雷など実際に戦争で使用された数々の兵器が展示してある零パークを訪れた。その一つ一つに命を預けて戦った兵士達の悲痛な叫び声その兵器に沁み、そっと手を触れれば聞こえるような気がした。

そして10月あの岸壁の母で知られる舞鶴一帯を観光した。そこでの圧巻は稀にしか見られない舞鶴湾を覆う幽玄な雲海であり、また偲ぶには辛すぎる悲喜こもごものドラマをうんだ引揚げ棧橋であった。

さらに今年の3月、修学旅行としゃれて南九州は指宿・知覧・霧島と学生気分2泊3日の旅に出発した。ここでのメインは知覧であった。私達は同じ世代の特攻隊員の写真と遺書を前に思わず涙し合掌していた。賑やかな旅行客もここでは黙って語らない。そして指宿に向かう車窓から眺めた開聞岳に、片道燃料で母なる故国に永遠の別れを告げ出撃していった隊員達の勇姿をかいまみたように思えた。

こうして忘れることの出来ない思い出と感激を胸に、それぞれの旅を終えたが、今後も楽しい企画を追い続け実施したいと考えている。



「第21号で紹介された登山家」

小西 浩文 (昭和55年卒)

この地球上には、8000m以上の山は14座ある。もう少し厳密に言えば、ヒマラヤ山脈のネパール、中国領チベット、インド、パキスタン。これら4か国にのみ存在している。

この8000m峰の頂上あたりの気象条件は、東京や大阪辺りの気象条件と比べると、酸素濃度が3分の1、気圧も3分の1、気温は季節によるが、一般的登山シーズンとされる春・夏・秋で氷点下15℃～35℃である。さらにこれらに風が加わる。秒速10メートルから45メートル程の風がほぼ常時吹いている。国内線の飛行機が安定飛行で飛んでいる高度と考えていいだろう。

8000m峰に登ろうと考える登山家にとって最大の障害となるのが<低酸素>と<低気圧>である。通常これら大障害を克服する為に酸素ボンベが使用され、頂上にアタックをかける時、毎分2～4リッターの酸素を吸うが、8000mの頂上付近で毎分2リッターの酸素を吸うと身体はおおよそ標高6500mで無酸素でいるのと同じ状態になる。これを毎分3リッター、4リッターと吸えば、身体の状態はもっと低い高度一すなわち6000m～5800mという状況に無酸素でいることになる。世界中から8000m峰を目指す登山家がヒマラヤに来て、彼らの9割以上が酸素を使用(有酸素)して登山活動を行うが、私は1982年、20歳の時に8000m峰に行ってから、一貫して酸素ボンベを使用せず、無酸素で登り続けている。これは何故かという、天から与えられた己の心臓と肺だけで登りたいということ。それと酸素ボンベを使用すると、8000m峰を登っても実際は6000m峰を登ったのと変わらないのではないかという私の考えと意があるからだ。私は山がどんなに高くとも、厳しくとも、己の心身のみで登るのがベストと確信している。しかし、言うは易く行うは難し。実際に8000m峰を無酸素で登るのは危険極まりない。これは無酸素で登頂した登山家と有酸素で登頂した登山家の登頂率、生還率にかなりの差があるという現実が物語っている。

私は他の登山家が酸素ボンベを使用することは、至極尤もだと思し、一切否定しない。しかし私は初めてヒマラヤに行く以前、ヒマラヤを志した16歳の頃から自分は無酸素で行くべき—それが自分にもっとも合ったやり方、スタイルだと確信していた。それは20年間で16、7回8000m峰にてかけ、そのうちの6座を無酸素で登り、その間、先輩、同輩、後輩、そして友人を45名以上、山でなくした現在でも、いざさかも揺るんでいない。

彼らの死が私を当時よりはるかに強くした。

今春、マナスル(8163m)から帰国後の7月、私は妻を脳の動脈瘤破裂による蜘蛛膜下出血で亡くした。「いまという時は、なかりけり。まの時、来ればいの時は去る」この禅の古歌を胸の内て詠みながら、亡き妻の御魂と共に、この生命ある限り、私は登り続ける。

第7回 北陽同窓会ゴルフコンペ開催

今年の同窓会ゴルフコンペを5月15日(水)学校創立記念日に花屋敷ゴルフ倶楽部よかわコース(6103ヤードパー72)で開催。福武理事長、鈴木教頭をはじめ先生方6名、OBの金沢、萩原元先生、ゲストとして吉田義男、三宅秀史、室山皓之助さんら阪神タイガースOB、樋口正蔵さん南海ホークスOB、毎回遠路高知からご参加いただく松岡前野球部監督を含む101名で、梅雨のはしりとなる小雨模様ではあったものの、27組が新緑のコースをスタート。スコアそのものよりも一年ぶりに顔をあわせた人達であちこちに人の輪ができ、旧交をあたためる光景がみられた。

競技後、倶楽部四階ホールで三木会長の挨拶につづき表彰式が行なわれ、途中吉田元監督による星野タイガースの快進撃の解説に加え、近い将来、岡田監督が誕生するであろうとの話に会場大いに沸く。

ゲスト参加ならびに出席者のご厚意による賞品の授与が行なわれた。人数が増えるとともに裏方でお世話いただいた方々へのお礼を申し上げます。

(記 寺田 賢作)

競 技 成 績

		GROSS	HDCP	NET
優 勝	海 谷 好 雄 (ゲスト)	78	7.2	70.8
2 位	口 村 茂 (S46年卒)	84	12.0	72.0
3 位	三 宅 秀 史 (ゲスト)	95	22.8	72.2
4 位	木ノ下 良 久 (S50年卒)	87	14.4	72.6
5 位	塩 田 修 三 (S35年卒)	85	12.0	73.0



ご協力のお礼

協力金推進委員会

平素は同窓会発展にご協力賜りましてありがとうございます。

前回発行しました会報に掲載させていただきました以降にご協力いただきました方々の氏名を掲載いたします。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

銀行口座振込者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 栗田 | 文武 | 吉生 | 島勢 | 勇弘 | 稲嶺 | 盛幸 | 岡田 | 田山 | 彰興 | 布三 | 岡田 | 田合 | 勉幸 | 尾木 | 上村 | 則啓 | 昭二 | 柿小 | 木林 | 龍光 | 一富 |
| 梶井 | 武俊 | 博治 | 勢森 | 弘信 | 神尾 | 正樹 | 神佐 | 山木 | 興予 | 三清 | 川塩 | 合田 | 幸三 | 木城 | 村島 | 啓末 | 二明 | 小高 | 林梨 | 光昌 | 彦彦 |
| 小武 | 俊昭 | 治夫 | 森田 | 信洋 | 根中 | 直健 | 佐田 | 木村 | 予帥 | 昭浩 | 塩塚 | 田越 | 三豊 | 城佃 | 島達 | 明一 | 明郎 | 津西 | 田川 | 真昭 | 彦彦 |
| 武寺 | 昭賢 | 作夫 | 西本 | 美一 | 中海 | 成芳 | 中浜 | 路田 | 康憲 | 浩雄 | 中福 | 村島 | 昭雄 | 西藤 | 厚永 | 昇明 | 西堀 | 川川 | 昭三 | 三隆 | 彦彦 |
| 西前 | 省勝 | 三己 | 島田 | 晃健 | 水藤 | 英定 | 三 | 木田 | | 三 | 宮 | 永 | 之 | 村 | 正 | | 望 | 月 | | | 弘 |
| 山崎 | | | 吉 | | 依 | | | 三 | | | | | | | | | | | | | |

郵便振込者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 相伊 | 坂見 | 洋秀 | 一雄 | 東石 | 正隆 | 忠一 | 安系 | 達井 | 仁至 | 荒伊 | 木藤 | 俊謙 | 夫三 | 飯福 | 川嶺 | 隆盛 | 司幸 | 池福 | 友村 | 久一 | 池井 | 田上 | 一孝 | 夫平 |
| 伊井 | 見上 | 秀三 | 雄二 | 石今 | 隆良 | 一稔 | 系井 | 井本 | 至雄 | 伊入 | 藤道 | 謙美 | 三之 | 福岩 | 嶺崎 | 盛悦 | 幸治 | 福上 | 川塚 | 一也 | 井上 | 上田 | 孝昭 | 平三 |
| 魚谷 | 上谷 | 三知 | 生三 | 氏岡 | 良正 | 稔男 | 井内 | 本田 | 雄三 | 入姥 | 道浦 | 美作 | 次布 | 大岡 | 崎谷 | 悦佳 | 和隆 | 上大 | 塚本 | 也雄 | 上大 | 田規 | 昭浩 | 豊一 |
| 小野 | 野川 | 健正 | 三行 | 岡奥 | 正浩 | 博道 | 内岡 | 田入 | 三男 | 姥岡 | 浦田 | 彰辰 | 次布 | 岡小 | 谷部 | 佳守 | 隆彦 | 岡嘉 | 本勢 | 雄弘 | 大岡 | 本規 | 浩平 | 助彦 |
| 小神 | 川垣 | 雅直 | 行守 | 川菊 | 良利 | 道幸 | 岡奥 | 入原 | 男幸 | 岡小 | 田倉 | 辰辰 | 次布 | 小川 | 原中 | 守国 | 彦三 | 嘉川 | 西川 | 仁二 | 大岡 | 田規 | 隆彦 | 彦彦 |
| 川木 | 本戸 | 直孝 | 樹男 | 野金 | 利広 | 幸平 | 奥喜 | 原多 | 志治 | 北小 | 倉上 | 克良 | 次布 | 木小 | 田原 | 一公 | 介治 | 北木 | 村田 | 雄二 | 木村 | 寺村 | 一夫 | |
| 小木 | 林野 | 良二 | 男勝 | 金嘉 | 善廣 | 隆夫 | 喜葛 | 下久 | 哉男 | 木小 | 下元 | 敬之 | 次布 | 木小 | 田原 | 大昌 | 治雄 | 木黒 | 田藤 | 二雄 | 村藤 | 古村 | 二介 | |
| 杉高 | 野本 | 中一 | 晴一 | 塩塩 | 三郎 | 夫勇 | 葛藤 | 藤原 | 茂之 | 小北 | 田部 | 之希 | 次布 | 木小 | 田原 | 一英 | 治雄 | 佐下 | 原木 | 廣昌 | 村藤 | 井谷 | 一夫 | |
| 寺高 | 山井 | 茂一 | 一強 | 田寺 | 彌三 | 治勇 | 藤藤 | 川上 | 之之 | 木北 | 原川 | 淳元 | 次布 | 木小 | 田原 | 浩一 | 二介 | 高田 | 村井 | 昌一 | 内中 | 村藤 | 一夫 | |
| 仲高 | 上村 | 高央 | 茂一 | 仲中 | 義三 | 勇一 | 原藤 | 島上 | 之二 | 木小 | 川島 | 淳元 | 次布 | 木小 | 田原 | 祥一 | 夫次 | 島高 | 井野 | 博進 | 村藤 | 井田 | 一夫 | |
| 中西 | 川本 | 弘央 | 一高 | 西中 | 則三 | 己一 | 藤原 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 輝忠 | 夫次 | 成野 | 海井 | 進男 | 田井 | 田井 | 一夫 | |
| 西橋 | 谷本 | 勝重 | 高央 | 浜藤 | 辰重 | 己一 | 元田 | 川野 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 芳和 | 夫次 | 野平 | 口井 | 男明 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 深星 | 野田 | 重男 | 高央 | 藤細 | 重幹 | 己一 | 田井 | 川野 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 貞三 | 夫次 | 法前 | 井柏 | 明昭 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 前松 | 上田 | 男実 | 高央 | 松牧 | 耕三 | 己一 | 井砂 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 直三 | 夫次 | 松丸 | 田山 | 勇一 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 光村 | 田尾 | 道史 | 高央 | 三村 | 地紀 | 己一 | 村崎 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 純信 | 夫次 | 丸宮 | 山本 | 一雄 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 村康 | 尾寄 | 雅進 | 高央 | 八山 | 明雅 | 己一 | 田崎 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 行健 | 夫次 | 森山 | 山本 | 弘彦 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 山山 | 原政 | 志 | 高央 | 山 | 義二 | 己一 | 田崎 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 一彦 | 夫次 | 山山 | 山山 | 彦彦 | 井田 | 井田 | 一夫 | |
| 吉原 | | | 高央 | 山 | 義二 | 己一 | 田崎 | 原上 | 九明 | 木小 | 村島 | 清太 | 次布 | 木小 | 田原 | 一彦 | 夫次 | 山山 | 山山 | 彦彦 | 井田 | 井田 | 一夫 | |

◇ 華々しいクラブ活動受賞歴 ◇

運動部

()は部員数

サッカー部 (110)

- 全国大会34回出場
(総体21回・選手権10回・全日本ユース3回)
優勝2回、準優勝1回、3位5回

硬式野球部 (110)

- 甲子園13回出場(夏選手権6回・春選抜7回)
準優勝1回、ベスト4進出2回
- 近畿大会優勝3回・準優勝5回

陸上競技部 (62)

- 全国インターハイ14回出場
- 近畿インターハイ27年連続出場
- 国体出場(槍投げ)
- 全国ジュニアオリンピック3回出場
- 近畿高校駅伝大会14年連続出場

水泳部 (36)

- 全国インターハイ入賞
(個人メドレー優勝・3位2回・400mリレー3位・多数入賞)
- 国体・全日本選手権・全国ジュニアオリンピック等全国大会22年連続出場し多数入賞

ハンドボール部 (23)

- 全国高校選抜大会準優勝(H4)
- 全国総体出場1回(H9)

- 国体大阪府代表選手12名
- 近畿大会16回出場(優勝4回・準優勝1回)

大阪府下決勝リーグ戦に常時出場

- 軟式野球部 (23)
- 全国大会出場3回(H9・H10連続出場)
- なみはや国体3位・ゆめ国体3位
- 近畿大会優勝3回
- 大阪府大会優勝6回・準優勝17回

硬式テニス部 (20)

- 国体出場(H10)
- 全日本ジュニア大会出場
- 関西ジュニア連続出場
- 近畿大会連続出場・大阪府準優勝(H7)

バレーボール部 (30)

- 近畿大会出場15回
- 大阪府1部リーグ優勝12回
- 私学大会準優勝1回・3位入賞3回

バスケットボール部 (32)

- 近畿大会出場2回(H7・H9)
- 大阪府下ベスト8(H10)
- 商業大会優勝1回

卓球部 (11)

- 近畿大会出場2回
- 大阪選抜シングルスベスト4
- 大阪府下連続ベスト16

柔道部 (25)

- 全国大会出場1回

- 近畿大会出場3回
- 大阪府下連続ベスト8

剣道部 (15)

- 全国大会優勝
- 私学大会優勝4回
- 公私商業大会優勝5回
- 北摂大会優勝5回

空手道部 (18)

- 府下個人戦ベスト16

文化部

()は部員数

ジャズバンド部 (23)

- スチューデントジャズフェスティバルにて
日本学校ジャズ教育協会会長賞・ベストサウンド賞・優秀賞・神戸市長賞受賞
- 全国選抜スチューデントジャズフェスティバル出場
- 毎年定期演奏会開催

将棋部 (20)

- NHK杯団体3位
- デイリースポーツ杯個人戦ベスト4

放送部 (6)

- 校内放送(昼の音楽放送)にて活躍・パソコンによるゲームプログラム作成中

史跡研究部 (3)

- 夏期合宿で全国の史跡巡り。韓国合宿2回実施・文化祭での発表

鉄道研究部 (7)

- 全国の鉄道研究を目標に夏期合宿では全国いたる所へ出掛ける

写真部 (4)

- 校内行事・クラブ大会などの記録撮影に活躍・写真コンテストに参加

映画研究部 (4)

- 自主映画製作・映画鑑賞会を年3回実施

美術部 (11)

- 「物を見る眼」「感じる心」下手だと思ふ前にもう一度チャレンジしよう

フォークソング部 (15)

- 文化祭・新入生歓迎会など学校行事の中でコンサート活動

新聞部 (3)

- パソコン新聞「北陽かわらばんエクスプレス」の発行・文化祭展示発表

釣り部 (6)

- 月1回の釣行。釣りは自然との対話・釣り場美化の励行

グリークラブ (12)

- 文化祭発表・校外の音楽祭などに参加

事務局 便り

大谷校長先生就任を祝う会を6月14日(金)新阪急ホテル花の間にて、大谷先生の教え子を中心に約60名の方々にご参加いただき祝賀会を開催いたしました。ご参集いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

編集後記

三月に林校長が勇退され、大谷新校長、ならびに鈴木新教頭のもとに4月からスタートをされました。林校長永年に亘るご苦勞に感謝すると同時に、新体制による学校経営に携わる先生方にエールをお送りいたします。

不明者調査ご協力をお願い

■同封の不明者一覧には

宛先不明、移転先不明等のため戻った方(町名、番地変更の戻りを含む)

■事務局では、一人でも多くの同窓生の正しい住所を掲載するために、住所調べを行っております。

しかしながら、現在も住所のつかめていない方がまだまだおられます。一覧の中に、ご存じの知人(同級生)やご家族の方がおられましたら、同封の「住所不明者連絡ハガキ」にて現住所をお知らせ下さい。
(「住所不明者連絡ハガキ」の紹介面を直接FAXしていただいても結構です。)

なにとぞご協力のほど、よろしく願いいたします。

高、会員番号は必ずご記入下さい。

※情報を頂いた方でまだ記載されている方は、現在確認中です。

北陽高等学校同窓会事務局

FAX (06) 6328-5964(代)

TEL (06) 6327-2747